小学校体育科における Baseball5 の学習可能性に関する研究

中村　太一（熊本大学）

１．目的

本研究の目的は、ベースボール型が抱える課題である、広いスペースと多くの道具を必要とするソフトボールとティーボールしか指導要領解説の例示で挙げられていない点、バットでボールを打つことは技能的に難しいため戦術面にまで意識を向けることが難しい点を克服した新たなベースボール型教材として、Baseball5 の学習可能性について検討することである。

２．研究方法

１）対象者：熊本市内 K 小学校第 6 学年 34 名

２）調査方法：Baseball5 を教材とした授業を 7 時間行い、その様子をビデオ撮影したものを後日分析し、技能発揮や状況判断の向上について調べる。

３）分析方法：打撃の場面において、打球がフライアウトにならずフェアゾーンに入った場合を成功とした技能成功率、空いているスペースや進塁先から遠い方向を狙った場合を適切とした状況判断適切率について毎打席分析する。

３．結果と考察

１）　技能成功率では、初回から 40%を超えており、小学生にとってやさしい技術のみで行うことができることが明らかになった。また、徐々にミスが無くなり、単元終盤には 80%を超えていることから技能の向上が期待できることも明らかになった。（表 1）戦術面では、守備が捕りにくい回転をかける、上からと横からどちらからも打って守備を翻弄する、打球を守備にぶつけてファールゾーンに出させてそれを取りに行かせる間に進塁する、といったものが見られた。

表 1　技能成功率の推移

1	2	3	4	5	6	7
42% 24/57	62% 39/63	70% 37/53	75% 33/44	72% 33/46	84% 57/68	83% 75/90

２）　状況判断適切率では、単元序盤で状況を考慮せず打つ打席がほとんどだった一方で、終盤には守備の配置や走者の位置を把握して状況に合わせて打つ打席がほとんどであった。（表 2）打者が打席に入ってから考えている時間が長くなる変化も見られた。

表 2　状況判断適切率の推移

1	2	3	4	5	6	7
25% 14/57	44% 28/63	45% 24/53	68% 30/44	67% 31/46	75% 51/68	73% 66/90

４．結論

本研究では、技能成功率が初回から 40%を超えており、小学生でも十分達成可能な技能のみで行えること、技能成功率が授業進行とともに向上しており、学習の成果が期待できること、状況判断適切率が授業進行とともに向上しており、回を経る毎に適切な状況判断を学習していくことができることから、Baseball5 がベースボール型の新しい教材として有効であると明らかになった。ただし、今回は打撃のみを取り上げたため、守備や走塁の学習可能性について検討していく必要がある。

５．主な参考文献

１）石井克之，大野高志，竹内隆司，岩田靖，土屋健太，小学校体育におけるベースボール型教材の開発とその実践的検討―「ブレイク・ベースボール」の構想とその分析―，2009

２）大田穂，小出真奈美，岩間圭祐，鈴木由香，木塚朝博，小学校体育におけるベースボール型授業の実施状況とその課題, 2022